

佳作

だしの上から見えたけしき

茨城県 石岡市立府中小学校四年 山口 凜乃

わたしが一番感動したことは、この夏に柿岡のお祭りでおかめさんの服でお面をつけてだしの上でどったことです。その時に見たお父さんやお母さん友だち、お客さんのえがおをはっきりおぼえています。

毎年七月になると柿岡でお祭りがあります。柿岡にはおじいちゃんとおばあちゃんのお家があり、小さいころからお祭りが大好きでした。やたいでベビーカーやかき氷を買って食べたり、スーパーボールすくいをしたりします。でも、一番楽しみなのは上宿町のだしでした。

だしにはたいこをたくさんやふえをふく人、かねをする人、おどりをおどる人がいます。わたしは小さいころから見えていたおねえさんたちがおどるおかめさんにあこがれていて、「いつか、わたしもあそこでおねえさんたちといっしょにおどりたいな」と

思いながら、毎年おどりを見ていました。

そしてことし、その思いがかないました。六月から練習がはじまり参加していた時、

「ことしだしの上でどってみるかい？」と声をかけてもらいました。

「やったー！おどれる」と思いましたが、ふあんもありました。家族が、

「おうえんするからがんばってみれば。」

と言ってくれたので、ちようせんすることになりました。

毎週練習に参加し、家でどうが見ながら練習して、少しずつできるようになってきたことがうれしくてがんばることができました。

そして、お祭り本番。わたしはおかめさんの服にきがえて、ドキドキしながらだしの上にあがりました。ついにでばんがきました。きんちようして思うようにおどれなくてくやしかったです。たいこやふえの音を聞いていたら、ふしぎと体が練習の時みたいに動くようになりました。

おどっている時、お父さんやお母さんが見えてえがおだったことおぼえています。知らないお客さんもニコニコしていて、わたしはすごくうれしくてなみだが出そうでした。

だしの上から見えたけしきは、今でも心の中にこっぴいて、ずっとわすれないと思います。おどりが終わった後、みんなが、

「がんばったね。よかったよ。」

と声をかけてくれて、さらにうれしい気持ちになりました。

わたしはこのお祭りで、がんばって練習すれば思いがかなうことを学びました。そして、小学四年生でもたくさんの人をえがおにできるというきちなけいけんをすることができました。

らい年もだしの上でどって、たくさんの人を元気にできるようにしたいです。